

EVERY
CLOUDS
HAS
A SILVER
LINING

SAPPORO
TENJINYAMA
ART STUDIO
ANNUAL REPORT
(April 2021 - March 2022)

さっぽろ天神山アートスタジオ2021年度活動記録集



人間万事塞翁が馬

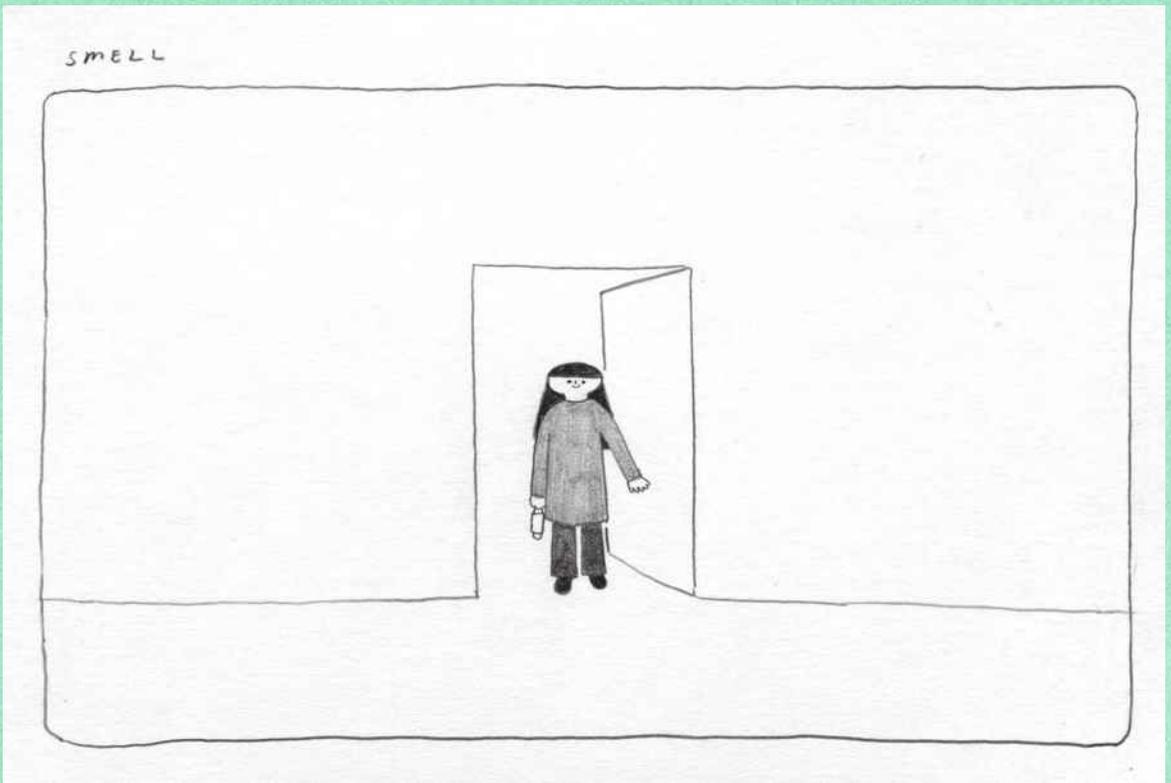
過去2年、そして現在に続いている世の中の変化は誰も予想してなかった。行政や社会システムがコロナによって（意外なほどあっけなく）変わっていったのはよいことだったように感じている。まさか、行政との打ち合わせがオンラインでできるようになるとは！やればできるをいくつもみることができた2年間だった。打ち合わせに限らず、オンラインでAIRプログラムやイベントが開催できることで、参加する方法が確実に増えた、求めれば行き着く。一方で、偶発的な出来事になかなか遭遇できないのは面白みを失って悲しいと感じ、狙いや計画の不完全さと不毛を理解した。移動を伴う滞在型の制作活動が止まったこともつらかった。ただ、自分自身や、アーティストの「移動を伴う活動」を検証する時間を持つことになったのはよいことだった。物理的にも心理的にも簡単に、安易に移動することができたよさと短絡さに向き合って、それほんとうに行きたいか、それほんとうに必要なのか？と考えるようになったのは活動を検討する上でも、地球の環境にとっても幸いかもしれない。それは効率とか合理性とかの「ほんとうに」ではなくて、心に問うプロセスの優先度が高まったことが幸いだということ。この2年間のさっぼろ天神山アートスタジオに向かうひとりひとりのアーティストたちからそんな繊細な思いを読み取っている。

世界は雲に覆われているけれど、光はなくなりません。心に問うことは、光を見つけようとして光に照らされるのと同じようなものだ。

小田井 真美（AIRディレクター）

アーティストとコロナ期間（2020年3月から2022年春くらいまで）

●アーティスト名（日本語表記） / アーティスト名（アルファベット表記） / 活動分野 / 活動拠点 / 滞在年度
滞在したアーティストのエッセイ、コメント（原文ママ）を掲載しています。



コロナ下の札幌、私の「精神と時の部屋」

メイ・イン（ヘーゼル）・ウォン / Wong Mei Yin, Hazel / 美術 / 香港、札幌市 / 2021年度

2018年末に札幌に留学しようと思っていたのですが、2019年のデモや2020年から始まったコロナの影響で、札幌滞在のプランは断念しました。日本留学のエージェントから再度連絡があるまで、私はもう一度留学することを考えていたが、心の中にはまだ躊躇していました。

コロナのため、出発の1週間前に、日本はまた外国人の入境禁止するを発表しました。行けないと思っていたので、友達や家族の方が緊張していましたが、逆に私はほっとしました。当時の決断が早すぎて、まだ心身とも準備ができていないと感じていたからです。（今振り返ってみると、心の準備が完全にできたことないかもしれません。）デモとコロナの後、香港の人々がほとんど将来について計画できません、運命に押されているような気がしています。

出発の3日前に、入境禁止の影響がないことが確認されました。2021年1月1日、私一人で9人だけの飛行機に乗りました。飛行機の中でずっと寝ていて、起きたら窓の外に満月があり、月明かりが地上の川や道路を明るく照らしていました。ここ数年、特別な瞬間に月と一緒に現れたことは素晴らしいことだと思うし、感謝しています。ガラガラな成田空港に到着し、一連の入国審査と防疫手続きを経て、荷物を持って空港を出ましたが、もう一度月を見上げるまでは、本当に一人で日本に来て、香港を離れたと確信しました。

その時は、たった1年3ヶ月で、もうすぐ香港に戻ってまた皆と会えると思っていました。コロナが終わりが無いとは考えてもみませんでしたし、外国人の入境も再開しておらず、家族や友人とは長い間会えませんでした。一人でこれほど長

く暮らし、色なことを乗り越えたと思いませんでした。たくさん良い友達に会い、彼らの様々なお世話と愛を受け取ることができると思いませんでした。そのおかげで、北海道についてもっと知り、色んな人生の可能性を体験することができました。1年3か月経って、香港の入国と防疫措置に満ちておらず、香港に帰れないことを考えませんでした。そしてこの滞在を続ける方法を見つけようとしてきました。このような一連の理由と機会により、私は芸術ビザを申請し、当面札幌に滞在することができましたが、いつ香港に帰れることができるかはまだ知りません。

札幌に来て最初の半年、私は天神山に戻って滞在し、着いた日は大雪で、部屋に入ってマスクを外した時、懐かしい匂いがしました。ああ、私が好きで恋しい匂いです。2年以上経ちましたが、この変化は思ったほどではありません。コロナのため、日本は当時、「三つの密」と「人と人の距離確保」を強調し、集会や活動のほとんどはオンラインで行われました。天神山に滞在するアーティストは少なく、ほとんどが日本人で、外国人は私だけでした。私ともう一人の女性アーティストだけの日もありましたが、毎晩とても静かだったので、創作に集中できて、珍しい創作な時間でした。

個展のために書き下ろしたテキストを拝借しました。ヘーゼルは広東語でテキストを執筆し、それをグーグル翻訳で日本語に変換しました。日本語のテキストとしては一部読みづらかったり、意味をとりづらい箇所もありますが、このごちない雰囲気を受け止めてください。テキストから、2021年に香港から札幌市に拠点を移したヘーゼルが向き合っている日々の空気感を想像することができるでしょう。「精神と時の部屋」は漫画『ドラゴンボール』に登場するワードです。(編集メモ)

ここ来る前は、天神山の人しか知らなかったので、友達も少なく、片手で数えることができました。香港の友人の紹介で、ここで初めての香港の友人鮭に会いました。彼女とても親切と心優しい人で、生きる北海道地図で、色々なところに連れて行ってきて、一緒にいる時間はいつも楽しくて心地よかったです。彼女のおかげで、私は年齢も背景も異なる十数人の香港人に会いましたが、同じスタンスを持っています。彼らに会ってそれぞれの話を学べたことにとても感謝しています。私にとって彼らはここにいる私の家族のようなものです。札幌に長く住むほど、さまざまな出会いがあり、さまざまなタイプや国の友達を知り、少しずつ自分の輪ができています。でも、香港の友達がなくて寂しくて、毎日連絡を取っています。夢の中に天神山の部屋から階段に降って、香港の友達は特別なビザを取得して全員がここに来たと言いました。これはいい夢ですね。

幸い、天神山で半年の滞在中、ほとんど多忙な創作に時間を費やし、多くの良い創作の機会とモチベーションに恵まれ、過去数年を合わせたよりも多くの絵を描きました。その間、札幌は私にとって大きな「精神と時の部屋」のようで、創作と自己を修行する機会を与えてくれます。



■ 荒木 悠 / Araki, Yu / 美術、映像 / 東京都、京都府 / 2019年度

良くも悪くも、人間臭さのようなものを肯定できるようになった気がします。それこそアウトブレイク当初は、国内外のニュースを目にして漠然たる不安が頭をよぎりました。この歳で死ぬこともあり得ない、と…。であれば残された時間を有意義に使いたい。どこにも行けないのであれば、今こそ書物という知の遺産に飛び込まなくては、と。しかし気づけば『愛の不時着』『俺の家の話』『パチエロレット・ジャパン』といったエンターテインメントにしっかりハマっており、己の怠惰さをも肯定していました(救われましたけど)。

■ 青木 尚哉 / Aoki, Naoya / ダンス / 東京都 / 2020年度

とてもとてもつらい期間でした。コロナの恐ろしさはその病原菌としての強さだけでなく、人々を分断していくものだと感じました、よくわからないということが、こんなに恐怖や対立を作り出すのだと感じました。一方ではコロナを自然と捉えると「人間が自然をわかりきってコントロールし切れることなどない」そんな自然に対する畏怖を、全世界の人々に思い出させてくれたのではないかとも思っています。愚かな僕たちはそれもまたすぐに忘れてしまうのですが、、ステイホームの期間は、これまでの暮らしを振り返る良い時間であったとも個人的には思いました。「できない」から生まれる「できる」「やりたい」は、忙しくなりすぎていた自分に本質的な根元を見直させてくれました。こんな時にこそ芸術、大それたことではなく、想像したり可能性を考えたりすることが楽しく、必要だと強く感じました。それによって「なんとかつながる」「なんとか続ける」ためのスキルをたくさん身につけることができました。

■ 永岡 大輔 / Nagaoka, Daisuke / 美術 / 神奈川県 / 2020年度

歩くこと。

ゆっくりと全身で歩くこと。

前に、左右に、後ろに。そしていつでも立ち止まれること。

静けさに耳を澄ますこと。

足元の草の言葉を習うこと。

忘れられた世界があること。

植物たちの営みがいつしか土地を変えていくように自分が変わること。

あげればきりが無いのですが、それらに通底していることとして、身体と言う自然にランディングすることと言えるかも知れません。「鉄道ができて、身体は貨物になった」と言う言葉がありますが、それとは逆さまのできごとです。社会はいつもリニアに進んでいて不可逆的なものと思われがちですが、そうではないのかも知れません。そして個人に置いて、どんなに注意深く暮らしても経験の中に必ず大事なものを落したり忘れ物があるものです。ですが、いつでもそれらを拾いに行けることを学んだと思います。多少勇気を振り絞ることにはなりますが、それは大きなできごとです。

■ 張 小船 / Zhang, Boat / 美術 / 中国上海、東京都 / 2021年度

コロナ後、東京に取り残された私は、上海の家にあるお気に入りのスカートや映画の中国製DVDをまだ取れていません。上海に戻るまで、髪は切らないことにしました。今、髪の毛は耳たぶの下くらいから腰まで伸びています。それは3年という長さですね。初めての超ロングヘアに悩んでいます！いつの日に切れるんだろう？もちろん、前髪は月に一回カットしています。切る時に、よく「なんで髪が痛くないんだろう」と考えました。東京にほぼ三年間住んでいるが、実はまだ引越していなかった。というわけで、今も上海に帰る便を待っているところです。いったん上海に帰ってからでないと、本当の意味での東京移住はできないような気がします。奇妙な人生や運命と感じました。歴史の中にいる人は、自分が歴史の中にいることを分からないだろう。「今夜別れた後は、いつの日君帰る？」

■ 山田 百次 / Yamada, Momoji / 演劇 / 東京都 / 2021年度

2020年7～8月、22年2～3月とコロナの猛威吹き荒れる中、天神山アートスタジオで滞在させていただきました。この間の天神山は滞在する人は本当に少なく、会っても気軽に話かけられず、とにかく距離をとっていました。舞台の公演が控えているため稽古場とスタジオをただただ往復する生活でした。そんななかでも天神山のスタッフの皆さんは気さくに接してくれて、気が休まるのを感じました。人って人と言葉を交わすだけでホッとするんですね。まだコロナは取まってくれませんが、10月も天神山の皆さんのお世話になります。

■ 曾我 英子 / Soga, Eiko / 美術 / 様似町、イギリス / 2021年度

2020年3月の下旬、私は北海道様似町で行う活動のために旅の準備をしていました。様似町でアイヌ女性の熊谷カネさんから、様似アイヌ料理を学ぶ予定でした。そんな中、出発3日前に北海道が緊急事態宣言を発令しました。コロナの全容が分からない状態だったので、旅を延期することを即決しました。その後6ヵ月経って、拠点のイギリスでも日本でもコロナが少し落ち着いたタイミングで、北海道に向かうことにしました。道から人や車がいなくなり、空に飛行機が飛ばなくなると、私の聴覚や嗅覚は今まで以上に敏感になったように思います。体感から得る知識や情報は想像以上に大きな役目を務めていると再認識をしました。そこで、それらをどのように捉え他者とシェアできるのか？様似料理の事を思いながら、カメラや録音機を使って実験をしました。また、自分が日々生活している環境に改めて向き合うきっかけとなりました。そんな中、庭に野菜畑を作る事を始めました。人ともなかなか会えない中、植物が元気よく育つ姿に力をもらいました。そんな体験が、様似で熊谷さんと山菜採りや海藻取りに行く時に感謝の気持ちを深くさせてくれたと思います。現在は、私たちの生活環境がより一層自然や人々の多様性を尊重できる社会になるよう、アートや教育の場をかりながら活動しています。

■ 升谷 絵里香 / Masuya, Elica / 美術 / 千葉県 / 2021年度

人に会うことができない。大きな制限をかけられた状況下で、新しいコミュニケーション手段を模索した。リモートの便利さを知ったけれど、そこから何かが大きく欠落していることも感じた。人に会えないのであれば、自然界に身を置こうと、アイスランドや北海道に向かった。自然と野生動物と人間の関係を考えていく中で、3つのビデオが出来上がった。インターネット上で作品を鑑賞できるようにして、インスタレーション要素を削る。それでも作品は成立するだろうか。少し時空がずれたような感覚に未だに陥っているけれど、改めて作品や周りの状況をじっくり考える機会となった。この時葛藤した時間の記憶は、大切にしたい。

■ 是恒 さくら / Koretsune, Sakura / 美術 / 宮城県、苫小牧市 / 2021年度

突然世界中に広まった非日常に対して、「今できることは何だろうか？」「どのような表現・発表の場を保てるだろうか？」と国内外のアーティストやキュレーター同士で考え、オンライン上で語らった日々もありました。これまでの「当たり前」を皆で見直す時間を共有できたことは、振り返ると、コロナ禍の収穫でした。様々な規制や長引く不安を抱える辛さと、新しいことに挑戦する楽しさが目まぐるしく交代した日々を経て思うことは、「どんな方向にも、道は開ける」ということ。今ようやく、冬眠から覚めるようにさまざまなことが動き出している気がします。私も世界も以前と同じには戻らないけれど、より優しく、より柔軟になったように感じます。

■ 泉 陽二 / Izumi, Youji / 演劇 / 愛知県、札幌市 / 2021年度

朝起きて、窓を開けてトイレに行き顔を洗い布団をたたんで食事の支度をする。その間にいつのまにか稽古が始まっている。予定されていた公演が中止となった。体が震えてどうしようもなかった。稽古をするしかなかった。2021年、北海道に移り住み、そこでも稽古を続けた。久しぶりに劇場に出かけて行った。演目も内容も憶えていないけれど、舞台には自分と似たような動物が口を開けて何か言ったり動いたりしている。不思議だと思った。それを見ている人もいる。何してるんだろう。なぜかうれしくなった。だいたいのことは思い通りにいかない。「もうやめれ」とも言われる。誰からもよろこばれないけどやっている。もっと工夫しよう。あっちこっち痛いなぁ。最近では眠るのが楽しい。夢の中で思う存分、稽古ができる。

■ 稲村 行真 / Inamura, Yukimasa / その他 / 千葉県 / 2021年度

コロナ期間は僕にとって、日本全国のお祭りが休止した空白の期間だったと思います。普段であれば、獅子舞をあちこち取材しに行っているのですが、それもなかなか難しく。むしろ獅子舞がない町に、獅子舞がいるとしたらどんな姿をしているだろう？と想像する時間が増えました。天神山で札幌の獅子舞を想像して制作した時も、コロナ期間があったからこそその視点があったと思います。2022年8月現在では徐々に各地のお祭りが復活してきました。そのような背景から各地で獅子舞の知見を蓄えつつ、獅子舞ははじめからいない町に獅子舞は生息できるか？という視点で各地で滞在制作を行い、その土地の暮らしの豊かさを考えています。

Artists & Events Record

2021年度滞在アーティストデータ

イベント

■日時/イベント種類（公開制作/アーティスト・トーク/写真展/滞在成果展/ワークショップ等）/タイトル/アーティスト名/企画など/場所

滞在アーティスト

●アーティスト名（日本語表記）/アーティスト名（アルファベット表記）/活動拠点/活動分野/活動内容

04 がらんとした アートスタジオ April, 2021



2021年4月24日（土）-5月2日（日）

開館時間短縮

夜間区分（18:00～21:00）の新規利用受付の停止

新規申込受付の停止

■2021年4月18日（日）

イベント/ディナーミーティング/セルフファンディング滞行者/談話交流

●メイ・イン（ヘーゼル）・ウォン/Wong, Mei Yin, Hazel/札幌市/美術/創作活動 ●升谷 絵里香/Masuya, Erika/千葉県/美術/創作活動、リサーチ活動 ●曽我 英子/Soga, Eiko/様似町/美術/リサーチ活動 ●是恒 さくら/Koretsune, Sakura/宮城県/美術/創作活動、リサーチ活動 ●内田 さとみ/Uchida, Satomi/札幌市/美術/展示「里 佳孝 × 内田 さとみ」/かわかみ画廊 ●トムスマ・オルタナティブ/Tomsuma, Alternative/富山県/美術、音楽、ダンス、映像/創作活動 ●福田 ハジメ/Fukuda, Hajime/札幌市/音楽/創作活動 ●高間 梓弓/Takama, Azusa/他4名/函館市 他/音楽/創作活動 ●北山 恵子/Kitayama, Keiko/東京都/写真/創作活動

05 アーティストが餃子をつくった May, 2021



2021年5月4日（火）-7月12日（月）

休館

滞在スタジオ、交流スタジオの休館期間中を利用日とする新規利用受付の停止

■2021年5月22日（土）

イベント/ディナーミーティング/セルフファンディング滞行者/談話交流

●内田 さとみ/Uchida, Satomi/札幌市/美術/展示「里 佳孝 × 内田 さとみ」/かわかみ画廊 ●高木 智章/Takagi, Tomoaki/札幌市/美術、写真、デザイン/創作活動 ●泉 陽二/Izumi, Yoji/愛知県/演劇/公演「劇後鼎談（アフタートーク）」/シアターZOO ●大岡 舞/Ooka, Mai/愛知県/演劇/公演「劇後鼎談（アフタートーク）」/シアターZOO ●福田 ハジメ/Fukuda, Hajime/札幌市/音楽/創作活動 ●池田 真由美/Ikeda, Mayumi/札幌市/工芸、演劇/創作活動



オンライン・レジデンシー

2020-2021年度を通じ、海外を活動拠点とするアーティストは日本への入国が困難であったため、アーティスト自身の活動場所（地域・国・都市）にとどまった。身体的に隔てられたアーティストとさっぽろ天神山アートスタジオは、主にインターネット通信と多様な手段を駆使して遠隔でコミュニケーションを重ね、リサーチ・制作・作品の展示/撤去の過程において協働作業をしようとした。

swimming in AIR 招聘アーティスト

<国際公募 AIR プログラム> P20~P23

ジョシュア・ソファア / Sofaer, Joshua

1972年 イギリス、ケンブリッジ生まれ。ソファアは、主にパフォーマンスやインスタレーションを手がけるアーティストである。公衆へと参加を促し、そうした招きに対する彼らの反応が作品の美的機能として取り入れられてゆく状況をよくつくり出す。

ギャラリー、オペラハウス、美術館、公共スペース、個人宅など、さまざまな場所で作品を制作しているが、ソファアの多様な活動を貫くのは、観客が世界とどのように関わっているかということへの関心である。人々の体験は重要である。それは人々が自ら選んでそのただなかに身を置く即物的な文化と同じように、重要なのだ。

彼の作品には、「コレクション」（私たちがあえて手元に置くもの）、「ゴミ」（私たちがあえて棄てるもの）、「名前」（私たちはどうやって、自分が名指されたものになってゆくのか）、「鼻」（私たちの顔の真ん中にある見落とされているかの器官）といったテーマが繰り返し登場する。

チャ・グエン / Nguyen, Tra

グエンは演劇による実験を行い、その可能性を他へ移し替えるような骨組みを構築している。ホーチミン市（ベトナム）で最も息の長いインディペンデントのコンテンポラリーアート・スペース Sàn Art にて2019年まで演技監督を務めており、その職務を通じて、ビジュアルアーツのためのさまざまな教育プログラムにも携わってきました。また2018年には、異分野提携の実験的演劇に特化したベトナム初のプラットフォーム「The Run – A Theater Project」を立ち上げた。以来、パフォーマンスの可能性を探究する目的で、パフォーマンス・アーツや視覚芸術、演劇芸術の異なる要素を巻き込んだオリジナルの演劇作品および演劇ワークショップを多数制作。オリジナルの演劇作品ではハノイ、ホーチミン、そして東京を舞台としています。現在、フルブライト奨学金の助成のもとカーネギーメロン大学（米国）の修士課程にて演劇脚本制作を専攻中。2020-2022年度のジョージタウン大学グローバル・パフォーマンス・アンド・ポリティクス研究室フェロー。

<交換プログラム リサーチ AIR プログラム> P24~P25

Jatiwangi Art Factory (インドネシア)

アリー・シャリフディン / Syarifuddin, Arie

1985年生まれ。アリー・シャリフディンは、Algorie(アルゴリー)としても知られている。アーティスト、キュレーター、文化プロデューサー、デザイナー、アーティスト・イン・レジデンス部門のディレクターとして、インドネシア最大の煉瓦屋根瓦生産地である西ジャワ州ジャティワンギ村のアートコレクティブ Jatiwangi Art Factory (ジャティワンギ・アート・ファクトリー)に参加している。

2005年に設立された Jatiwangi Art Factory (JAF) は、現代アートや文化的実践を地方の生活の一部として取り入れているコミュニティである。再設計すること、ハッキングすること、身の回りのありふれたものに価値と尊厳を与えること、フィクション、夢、現実、日常生活の間で折衝しようとする、そして歴史的な脈をとらえることは、アリー・シャリフディンの仕事の強い傾向としてみることができます。

TEC Land Arts Festival & Dawn Artists Village (台湾)

トントン・ホウウエン / 東冬・侯温 / Hounwn, Dondon

タロコ(太魯閣/Truku)族、台湾の花蓮県秀林郷銅門(Donmong)村落出身。「トントン」というのは可愛い子どもの意で、村落文化の発展過程で登場した新しく特別な名前である。「ホウウエン」は父親が由来の古い名前であり、鋭い刃を意味する。「トントン・ホウウエン」は現代と伝統の結合であり、そのユーモラスな性格と創作に対する厳格さの対比と表れて、矛盾する要素がぶつかったり混ざりあったりしている。「鍛えられて出来上がる刀への期待…、子どもの純真なこころを護ることができる刀…、きらきらと輝く未来を拓くことができる刀…」と、トントンは語っていた。

トントンは近年、映像、インスタレーション、パフォーマンスアートなどの芸術形式で、真正正銘の人生経験を奥深く伝達し、転換してつなげ、改めてその価値を思索している。トントンは過去を振り返り、当時の人々の自然資源や土地に対する見方から現代的な価値観との違いを考察し、完璧と崩壊の均衡を考えたいと思っている。

スールン・ウー / 吳淑倫 / Wu, Shu-Lun

1977年台湾生まれ。スールン・ウーは陶磁器とガラスの創作に長けており、オーストロネシア文化の研究者・愛好家で台東曙光芸術村の創始者兼アートディレクターでもある。スールンはオーストロネシア文化を研究することで自分が平埔民族のマカオ民族の血統を持つことに気が付いた。国立東華大学民族芸術研究所修士課程を卒業後、先住民村落の村づくりに取り組み、台東の台風被災地で芭伊(パイ)工坊を立ち上げて村の女性たちの自立に協力した。その後、台東曙光芸術村の独立運営を始め、台湾のオーストロネシア文化と海外のオーストロネシア文化や先住民文化の関係について注目し続けている。2015年に台東生活美学館の依頼で同年開催の花蓮台東原住民民族創作生活祭の東海岸エリアのアートディレクター、2015-2016年に東海岸大地芸術祭のキュレーションチームで管理計画と進行を担当し、2017年には同芸術祭の管理責任者を務めた。2018年に同芸術祭・月光海音楽会のプロジェクトリダー兼管理責任者、台東工芸デザインアーティスト・イン・レジデンス交換プロジェクトのアートディレクター、ならびに台東デザイン展原住民工芸デザイン Lima 展示エリアのアートディレクターを務めた。2019年には東海岸大地芸術祭・月光海音楽会のプロジェクトリダー兼管理責任者のほか、東南アジアアーティスト・イン・レジデンスミーティング(SEAARM)台湾エリア総合ディレクターの一員も務めた。2020-2022年には東海岸大地芸術祭・月光海音楽会のプロジェクトリダー兼管理責任者、さっぽろ天神山アートスタジオのアーティスト交換プロジェクトリーダーを務める

06

June. 2021

それでも旅するアーティスト



■2021年6月25日(金)

イベント/ディナーミーティング/セルフファンディング滞在者/
談話交流



■2021年6月25日(金)

トーク/「鯨寄る、海岸線の物語を編む」/是恒さくら/天神山AS
自主企画/オンライン/聞き手 四方幸子



●永島 顕子/Nagashima, Akiko/神奈川県/美術、写真/創作活動、リサーチ活動 ●寺越 隆喜/Terakoshi, Takaki/東京都/美術、音楽、演劇、ダンス、写真、映像/創作活動、リサーチ活動、展示・公演 ●長坂 有希/Nagasaka, Aki/大阪府/美術/展示「藻類の時間軸 - 私たちの始まりへ-」/北海道大学総合博物館

07

庭プロジェクトという名の天神山の菜園

July. 2021

2021年7月13日(火)-7月22日(木)

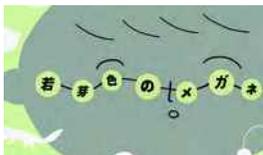
施設の利用再開

滞在・交流スタジオの申請受付再開

2021年7月23日(金) -8月1日(日)

開館時間短縮

交流スタジオの・夜間区分(18:00 - 21:00)、全日区分(9:00 - 21:00)の
新規利用受付停止



■2021年7月14日(水)-8月1日(日)

展示/「若芽色のメガネ Sprout-colored glasses」/メイ・イン(ヘーゼル)・ウォン/Wong Mei Yin Hazel/天神山AS自主企画/展示スペース



●内田 さとみ/Uchida, Satomi/札幌市/美術/展示「里 佳孝 × 内田 さとみ」/かわかみ画廊 ●加藤 貞寿/Kato, Teiju/東京都/音楽/創作活動、展示・公演 ●福田 ハジメ/Fukuda, Hajime/札幌市/音楽/創作活動 ●池田 真由美/Ikeda, Mayumi/札幌市/工芸、演劇/創作活動 ●スミタ ナツミ/Sumita, Natsumi/札幌市/美術/創作活動

08

産炭地を巡るアーティスト
国際公募 AIR プログラム /
オンライン・レジデンス開始

August, 2021

2021年8月2日(月)-9月30日(木)

休館

滞在スタジオ、交流スタジオの休館期間中を利用日とする新規利用受付の停止



1972年

探しています。1972年生まれのひと！

●井上 修志/Inoue, Shuji/宮城県/美術/2021年度同時期滞在日本AIRプログラム招聘アーティスト、東京藝術大学GAP賞副賞滞在 ●松山 聖央/Matsuyama, Mao/他1名/兵庫県/美術/リサーチ活動 ●阿賀 圭祐/Aga, Keisuke/兵庫県/文芸/リサーチ活動 ●札幌平岸高等学校放送部/Sapporo Hiragishi High School/12名/札幌市/映像、ラジオドラマ制作/創作活動 ●野村 有志/Nomura, Yuji/大阪府/演劇/公演「我が生涯、痛恨のダ・カーポ」/小劇場楽園(公演中止) ●杉原 永純/Sugihara, Eijun/東京都/映像/「西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●長崎 隼人/Nagasaki, Hayato/大阪府/映像/「西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●小田 香/Oda, Kaori/大阪府/映像/「西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●堤 拓也/Tsutsumi, Takuya/滋賀県/美術、デザイン/展示「高嶺格[歓迎されざる者-北海道バージョン]」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●浪花 朱音/Naniwa, Akane/滋賀県/美術、デザイン/展示「高嶺格[歓迎されざる者-北海道バージョン]」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●坂本 公成/Sakamoto, Kosei/京都府/ダンス/創作活動、展示・公演 ●森 裕子/Mori, Yuko/京都府/ダンス/創作活動、展示・公演 ●内田 さとみ/Uchida, Satomi/札幌市/美術/展示「里 佳孝×内田 さとみ」/かわかみ画廊 ●高間 梓弓/Takama, Azusa/他2名/函館市 他/音楽/創作活動



●長坂 有希/Nagasaka, Aki/大阪府/美術/リサーチ活動 ●
 エドワン/Edwon/京都府/映像、その他/創作活動 ●谷中
 亜紀/Yanaka, Aki/兵庫県/美術/リサーチ活動 ●大崎 土夢/
 Osaki, Tomu/東京都/美術/2021年度同時期滞在日本AIRプ
 ログラム招聘アーティスト ●内田 さとみ/Uchida, Satomi/
 札幌市/美術/展示「里 佳孝 × 内田 さとみ」/かわかみ画廊
 ●石井 則仁/Ishii, Norihito/東京都/美術、ダンス/展示
 「石井則仁 空間美術展 Installation Exhibition がらんどう
 の庭」/Agt ●田中 千紗子/Tanaka, Chisako/東京都/美術、
 ダンス/展示「石井則仁 空間美術展 Installation Exhibition
 がらんどうの庭」/Agt



[国際公募AIRプログラム変遷と概要]

札幌国際芸術祭を契機に、はじめての公的なアーティスト・イン・レジデンス（以下、AIR）拠点として2014年5月に活動を開始したさっぽろ天神山アートスタジオでは、初年度から国際的に活動するビジュアルアーツ分野のアーティストを対象に、活動経費給付型（奨学金型）のアーティスト・イン・レジデンス事業を実施してきました。このAIR事業は、さっぽろ天神山アートスタジオの施設管理を担う一般社団法人AISプランニングと、プログラムディレクターの企画により毎年冬季間に限定してスタートし、3年目から札幌市事業として実施してきました。2018年度から文化庁の支援が加わり、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大予防策として、海外を拠点とするアーティストの来日がない、リモートによるAIR参加の試み（オンライン・レジデンシー）で実施しました。またプログラム開催時期を夏の終わりから秋に変更しました。

[プログラム・フォーマット]

招聘されるアーティストはAIRの機会をつかって、さっぽろ天神山アートスタジオと協働し、札幌・北海道をリサーチして新しい作品やプロジェクトを構築します。作品やプロジェクトの進捗状況に応じて、プログラム最終段階にはプログラム成果を札幌または道内のいずれかで発表します。

[2021年度の国際公募AIR「SWIMMING in AIR」]

公募選考にキュレーター2名が加わって、ジョシュア・ソファアー、チャ・グエンの2名を選出しました。選考を行なったキュレーターは、レジデンスプログラム期間中に招聘アーティストの伴走者を務めました。

プログラム期間：2021年8月31日～10月29日：60日間

10

アートとリサーチセンター・ツアー
インドネシア交換 AIR プログラム /
オンライン・レジデンシー開始

October. 2021

2021年10月1日(金)-

施設の利用再開

滞在・交流スタジオの申請受付再開



■2021年10月8日(金)-11月7日(日)

展示「松本力を聴く(聴き取りの練習)」/松本 力、張 小船 Boat
Xiaochuan ZHANG/天神山AS自主企画/和室



■2021年10月19日(火)

トーク/クロストーク「パンデミックとアーティスト・イン・レジ
デンス」/遠藤水城、ミンヒョン・カン Kang, Min-hyung(オン
ライン)、アリー・シャリフディン Syarifuddin Arie (オンライ
ン)/国際公募プログラム/札幌文化芸術交流センター SCARTS 1
階 SCARTS コート



●坂本 公成/Sakamoto, Kosei/京都府/ダンス/公演「SAPPORO
DANCE BOAT PROJECT 2021」/シアター ZOO ●森 裕子/
Mori, Yuko/京都府/ダンス/公演「SAPPORO DANCE BOAT
PROJECT 2021」/シアター ZOO ●張 小船 /Boat, ZHANG /
東京都/美術/展示「松本力を聴く(聴き取りの練習)」/さ
っぽろ天神山アートスタジオ ●武田 彩莉/Takeda, Ayari/秋田
県/美術/リサーチ活動 ●吾郷 亜紀/Ago, Aki/東京都/デザイ
ン/2021年度同時期滞在日本AIRプログラム サポート ●宮守
乙十葉/Miyamori, Otoha/東京都/演劇/公演「マグノリア
の花たち」/生活支援型文化施設コンカリーニョ ●長崎 隼人/
Nagasaki, Hayato/大阪府/映像/「西2丁目地下歩道映像制作
プロジェクト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●杉原 永純
/Sugihara, Eijun/東京都/映像/「西2丁目地下歩道映像制作プ
ロジェクト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●筒井 龍平/
Tsutsui, Ryohei/神奈川県/映像/「西2丁目地下歩道映像制作
プロジェクト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●小田 香/
Oda, Kaori/大阪府/映像/「西2丁目地下歩道映像制作プロジェ
クト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●三浦 博之/Miura,
Hiroyuki/大阪府/映像/「西2丁目地下歩道映像制作プロジェク
ト」/札幌文化芸術交流センター SCARTS ●鈴木 悠哉/Suzuki,
Yuya / 福島県/美術/展示「Intermediate インターミディエー
ト」/CAI03 ●池上 たっくん/Ikegami, Takkun/東京都/ダン
ス/公演「Too enough medium」/シアター ZOO ●平原 慎太
郎/Hirahara, Shintaro/東京都/ダンス/公演「Too enough
medium」/シアター ZOO ●大西 彩瑛/Onishi, Sae/東京都/ダ
ンス/公演「Too enough medium」/シアター ZOO ●村井 玲美
/Murai, Lemi/東京都/ダンス/公演「Too enough medium」/
シアター ZOO ●おぐり まさこ/Oguri, Masako/愛知県/演劇/
公演「OrgofA 4th.act[ひびそい]」/生活支援型文化施設コンカ
リーニョ ●夏池 風芽/Natsuike, Kazayu/京都府/美術/リサー
チ活動 ●前川 紘士/Maekawa, Koji/京都府/美術/リサーチ活動

[アートとリサーチ・ツアー]

2021年度のAIRプログラムのタイトル「SWIMMING in AIR」は、凧あげをイメージしたところが出発点でした。2021年春に、島袋 道浩さんとおしゃべりをしていて、いまロックダウンのインドネシアでみんな凧あげしているようだよと聞いて、ああ、これかとピンときたのでした。

実際に凧をあげようとなると、「許可とり」というトラップ&ハードルだらけで見えない規制に私たちの世界が覆われていることに簡単に気がつきます。いっけん自由な空にある不自由。こんな現状を突破できるのは、希望と、じっとしていられない心と体、イマジネーションや頓智ではないかと改めてアーティストの存在やエネルギーを恋しく思ったのでした。

当初、湧別町の放牧場で島袋さんを講師に「凧をあげるワークショップ」を計画しましたが、感染状況の事情のため、内容を大幅に変更、少人数のアーティストで訪れた場所を思い思いにリサーチするツアーとして実施しました。

◇実施日程：2021年10月31日 - 11月1日(1泊2日)

◇参加アーティスト：島袋 道浩、井上 修志、大崎 土夢、岡 碧幸、進藤 冬華

◇写真記録：小牧 寿里

◇ドライバー：水上 秀一、漆 崇博/AISプランニング、小田井 真美

アートとリサーチ・ツアーレポート
by 進藤 冬華





■ 2021年11月5日（金）

トーク/「釣れた魚に街の風景を見せる」 /井上修志/同時期滞在日本AIRプログラム/交流スタジオA/トーク・ゲスト：數根 功士朗

■ 2021年11月13日（木） - 30日（水）

展示/「エリプスの匂い」 /大崎土夢/同時期滞在日本AIRプログラム/salon cojika

■ 2021年11月17日（水） - 12月12日（日）

展示/「エリプスの匂い」 /大崎土夢/同時期滞在日本AIRプログラム/KINBI nicojika



■ 2021年11月23日（火） - 12月5日（日）

展示/「カートにのった演劇/Theatre on a cart」/チャ・グエン Nguyen, Tra/国際公募プログラム/展示スペース



●植野 智子/Ueno, Tomoko/埼玉県/美術/創作活動 ●加野 一成/Kaga, Kazunari/札幌市/美術、音楽、映像/創作活動
●マルクス・ボルジャ/Borja, Marcus / 京都府/音楽、映像/リサーチ活動 ●田中 桜子/Tanaka, Sakurako/神奈川県/美術/創作活動、リサーチ活動

[同時期滞在日本AIRプログラム変遷]

2014年から2017年度の国際公募では、日本を拠点とするアーティストが招聘アーティストの一角に存在してきました（黒田 大スケ、潘逸舟、福永 敦、西松 秀祐）また、2018年度から文化庁の支援を受け、国際公募AIRプログラムの実施と同時期に日本を拠点とするアーティストを招聘しています。国際公募AIR、同時期滞在日本AIRとほか同時期にさっぽろ天神山アートスタジオに自主的に滞在しているアーティストなども加わって、アーティスト同士が一時的に同空間を共有するポストアカデミー的に有意義な関係性が築かれてきました。これまでの同時期滞在日本AIRプログラムに招聘されたアーティスト（南 隆雄、黒田 大スケ、樺山 智子）は、過去にさっぽろ天神山アートスタジオを拠点にリサーチ、制作活動を行ってきた日本拠点のアーティストの中からディレクターが選定しました。また、2020年度には札幌・北海道拠点のアーティストを対象にした新規公募プログラムで2名（岡 碧幸、真砂 雅喜）を招聘しています。



■2021年12月12日（日）

Art&Breakfast/札幌の制作現場を紹介する！ Art & Breakfast Day with 天神山/市内制作拠点9組/市民交流事業/交流サロン/オンライン/NEVER MIND THE BOOKS（菊地和広、小島歌織）、平尾拓也、なえぼのアートスタジオ（進藤冬華）、特定非営利法人S-AIR（萩谷海）、SCARTS テクニカルサポートチーム（山田大揮）、CoSTEP（北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター、パク・ヒョンジョン）、SIAF部&SIAFラボ（漆崇博）、0地点（櫻田竜介、堀江理人）、Think School編集部（今村育子、わたなべひろみ、ウチダリサ）、Guesthouse OYADO SAPPORO（女将よしえ）



■2021年12月10日（金）-12月28日（火）

展示/Barim(韓国光州)とさっぽろ天神山アートスタジオの交換プログラム成果報告展覧会「From Amazon to Olympic」/ユジョン・ジョン Jung, Eugene、ジェハ・バン Ban, Jaeha、イクヒョン・キム Gim, Ikhyun & 玄宇民 Hyun, Woomin、三原 聡一郎、萩原 留美子/交換AIRプログラム/展示スペース他 館内全体



■2021年12月7日（火）-1月15日（土）

オープンスタジオ/鈴木悠哉/市民交流事業/交流スタジオ



●武田 彩莉/Takeda, Ayari/秋田県/美術/リサーチ活動 ●宮路 雅行/Miyaji, Masayuki/三重県/美術/2021年度韓国交換プログラム インストーラー ●松川 祐実/Matsukawa, Yumi/石川県/美術/展示/「アパート-5人の住人たち-」/CAI03 ●吉川 永祐/Kikkawa, Eisuke/石川県/美術/展示/「アパート-5人の住人たち-」/CAI03 ●長谷川 新/Hasegawa, Arata/埼玉県/美術/展示/「500m 美術館vol.36 [せんと、らせんと、：7人のアーティスト、4人のキュレーター]」/500m 美術館 ●飯岡 陸/Iioka, Riku/東京都/美術/展示/「500m 美術館vol.36 [せんと、らせんと、：7人のアーティスト、4人のキュレーター]」/500m 美術館 ●大崎 土夢/Osaki, Tomu / 東京都/美術/2021年度同時期滞在日本AIRプログラム招聘アーティスト、展示「エリプスの匂い」/salon cojica, KINBI nicojica ●村田 こけし/Murata, Kokeshi/東京都/演劇/公演「札幌演劇シーズン2022-冬 バインソー [ワタシの好きなぼうりょく]」/札幌市教育文化会館小ホール ●増澤 ノゾム/Masuzawa, Nozomu / 東京都/演劇/展示・公演 ●奥田 祐/Okuda, Yu/東京都/演劇/展示・公演 ●サリー・ラン/ Lunn, Sally/他1名/京都府/音楽/創作活動

[2021年度の同時期滞在日本AIR SWIMMING in AIR] P16~P19

道内AIR関係者が選考委員を務める公募形式により2名（井上 修志、大崎 土夢）を選出しました。国際公募AIRアーティストはリモートでプログラム参加していましたが、本プログラムのアーティスト2名はさっぽろ天神山アートスタジオを滞在拠点に、北海道内でのリサーチ活動と制作をおこないました。

プログラム期間：2021年9月7日～11月5日：60日間

01

雪が降る降る

January, 2022



●北山 恵子 /Kitayama, Keiko/東京都/写真/創作活動 ●鈴木悠哉/Suzuki, Yuya / 福島県/美術/展示/「Intermediate インターメディアート」/CAI03 ●畑澤 聖悟/Hatasawa, Seigo/青森県/演劇/公演「背中から四十分〜道北オロロン街道編」/シアターZOO ●村上 慧/Murakami, Satoshi/東京都/美術/展示「広告看板の家 札幌」/CAI03 ●内田 涼/Uchida, Ryo/東京都/美術/展示「広告看板の家 札幌」/CAI03 ●村田 こけし/Murata, Kokeshi/東京都/演劇/公演「札幌演劇シーズン2022-冬、パインソー [ワタシの好きなぼうりょく]」/札幌市教育文化会館小ホール ●ヒロ シェリ/Hiro, Shieri/東京都/演劇/公演「札幌演劇シーズン2022-冬 パインソー [ワタシの好きなぼうりょく]」/札幌市教育文化会館小ホール ●渡邊 ひかる/Watanabe, Hikaru/東京都/演劇/公演「札幌演劇シーズン2022-冬 パインソー [ワタシの好きなぼうりょく]」/札幌市教育文化会館小ホール ●宮原 由紀夫/Miyahara, Yukio/大阪府/ダンス/公演「Original self」/DANCE STUDIO LoRe

02

やまない雪

千鳥石ガラスクラブ始動!

February, 2022



■2022年2月3日(木) -3月13日(日)

展示/「50の質問/50 QUESTIONS」/ジョシュア・ソファアー Sofaer, Joshua/国際公募プログラム/国際公募プログラム/展示スペース



■2022年2月12日(土)、13日(日)、26日(土)

ワークショップ/子どもプログラム2021「千鳥石火山灰ガラスクラブ」ワークショップ/深澤孝史、上杉高雅、上ノ大作、伴野卓磨/市民交流事業/紅桜公園、交流サロン



●坂本 友希/Sakamoto, yuuki/南富良野町/美術、工芸/イベント「15の手と手」/丸井今井札幌 ●榎木 陽子/Enoki, Yoko/神奈川県/美術/創作活動、リサーチ活動、その他 ●山田 百次/Yamada, Momoji/東京都/演劇/公演「All Sapporo Professional Actors Selection Vol.3[暴雪圏]」/札幌文化芸術劇場 hitaru ●是恒 さくら/Koretsune, Sakura/苫小牧市/美術/展示「潜る眸」/CAI03 ●稲村 行真/Inamura, Yukimasa/千葉県/その他/創作活動、リサーチ活動 ●小林 大賀/Kobayashi, Taiga/札幌市/美術/子どもプログラム2021「千鳥石火山灰ガラスクラブ」 ●上杉 高雅/Uesugi, Takamasa/札幌市/工芸/子どもプログラム2021「千鳥石火山灰ガラスクラブ」 ●上ノ 大作/Ueno, Daisaku/北広島市/工芸/子どもプログラム2021「千鳥石火山灰ガラスクラブ」



■2022年3月3日（木）

トーク/アーティスト・トーク/服部文祥、石川竜一、島袋道浩/天神山AS自主企画/談話交流

■2022年3月20日（日）-4月10日（日）

展示/こどもプログラム2021「千鳥石火山灰ガラスクラブ」成果展覧会/深澤孝史、上杉高雅、上ノ大作、伴野卓磨/市民交流事業/展示スペース

●島袋 道浩/SHIMABUKU / 沖縄県/美術/創作活動、リサーチ活動 ●服部 文祥/Hattori, Bunsho/ 神奈川県/その他/創作活動、リサーチ活動 ●石川 竜一/Ishikawa, Ryuichi/沖縄県/写真/創作活動、リサーチ活動 ●林 千賀子/Hayashi, Chikako/旭川市/演劇/公演「All Sapporo Professional Actors Selection Vol.3 [暴雪圏]」/札幌文化芸術劇場 hitaru ●白濱 真紀/Shirahama, Maki/豊頃町/美術/展示「フィギュールの森(9)2022」/北翔大学札幌円山キャンパス ●白濱 雅也/Shirahama, Masaya/豊頃町/美術/展示「フィギュールの森(9)2022」/北翔大学札幌円山キャンパス ●北山 恵子/Kitayama, Keiko/東京都/写真/創作活動 ●ジェイミー・ハンフリーズ/Humphreys, Jaime/他1名/神奈川県/美術/その他



天神山アートスタジオの交換AIRプログラムについて

「AIRはネットワークそのものである」という言葉の通り、さっぽろ天神山アートスタジオでは国内外のAIRネットワークの開拓と構築に積極的に取り組んできています。これまで海外パートナー（台湾、中国、オーストラリア、韓国：連携開始順）から派遣されるアーティストの滞在制作活動の受入を継続的に行ってまいりました。2018年度以降は文化庁支援を得て、さっぽろ天神山アートスタジオから海外パートナーへの派遣をようやく実現することができるようになりました。（梅田 哲也/台湾、安田 葉/オーストラリア、菅野 麻依子/台湾）継続的にネットワーク・プログラムを実現できているパートナーとはそれぞれプロジェクトベース（テーマを設定した共同プログラム）での交流を続けています。

[2021年度のAIR交換プログラム SWIMMING in AIR] P24~P25

2018年度から継続的に相互にアーティストと派遣しているDawn Artists Village / TEC Land Arts Festival（台東市、台湾）とは『先住民文化と現代の先住民アーティスト』に関するリサーチプロジェクトを、また、新規で交換プログラムを開始したJatiwangi Art Factory（ジャティワンギ、インドネシア）とは、JAFが取り組んでいる『煉瓦産業と地域』をテーマに、インドネシアと北海道でそれぞれが自分の地域にフォーカスしてリサーチを行いました。



同時期滞在日本 AIR プログラム

釣れた魚に街の風景を見せる 井上 修志

Show The Fish Caught a View of The City Inoue, Shuji

井上 修志は、猛暑の札幌の8月、空知地域の炭鉱をつぶさに訪ね歩き、9月の後半くらいには産炭地エリアから港へとアーティストのフォーカスが移動していきました。結果、室蘭に何度も通い、そこでのリサーチを深めていきました。作品を制作することを目指して、構想を固め、プログラムの終わりかけの数日間で室蘭で撮影を敢行、作品を制作しトークイベントを開催しました。





アーティスト・プロフィール

井上は宮城県出身のアーティストである。多摩美術大学工芸学科を卒業後、東京藝術大学グローバルアートプラクティス専攻へ入学する。在学中ミュンスター美術アカデミーへ交換留学をした後、修了制作でGAP賞を受賞し修了する。

自身が中学生の時に3.11を経験し、街が一瞬にして流され瓦礫となっていく光景を目の当たりにして大きな衝撃を受ける。その経験から自然と社会の構造や関係性について考え始め、作品を制作している。井上の制作スタイルは一つのジャンルに固執せず、社会と自然というテーマを持ちながら幅広い表現形態を持つ。ある時は実際の街中へ介入するパフォーマンスや映像作品、またある時は街中で拾ったゴミや廃棄されてしまった不用品などを使う立体作品を制作する。

https://www.instagram.com/shujiinoue_works/



井上修志
「釣れた魚に街の風景を見せる」トーク
記録動画



◇プロジェクト協力（敬称略）：磯崎 道佳/リサーチ指南（アーティスト）、漆 崇博/釣り指導（AISプランニング）

◇コーディネート・撮影：小林 大賀（さっぽろ天神山アートスタジオ）

◇プログラム期間：2021年9月7日（火）～11月5日（日）：60日間

◇成果報告トークと会場：2021年11月5日（金）19:00-、交流スタジオA



エリプスの匂い 大崎 土夢

The Smells like Ellipse Osaki, Tomu

「海の幸」で知られる同郷の画家青木繁がもし北海道に来ていたら？という仮想をもとに道内（主に余市エリア、洞爺湖エリア）リサーチ旅行を行いました。さっぽろ天神山アートスタジオ内「展示スペース」を仮設のアトリエにして制作に没頭しました。プログラム終了後、札幌市内2箇所のギャラリーで成果展覧会を開催しました。道内の縄文遺跡や明治期の資料を通じて青木繁の目を追った今回のプロジェクト。新作の油彩画5点(80～120号)のほかドローイング作品、レジデンスの記録をもとにしたアートブック（購入可能）を展示しました。





アーティスト・プロフィール

1984年福岡県生まれ、東京都在住。ペインティング、ドローイング及びインスタレーションを制作。

<http://tomuosaki.com/>



◇プロジェクト協力（敬称略）：大下 智一（北海道立近代美術館）、小牧 寿里（写真家、余市エリアガイド）、川上大雅（salon cojica, KINBI nicojica）

◇コーディネート：小林 大賀（さっぽろ天神山アートスタジオ）

◇プログラム期間：2021年9月7日（火）～11月5日（日）：60日間

◇成果展覧会会期と会場①：2021年11月13日（土）～11月30日（火）、salon cojica

◇成果展覧会会期と会場②：2021年11月17日（水）～12月12日（日）、KINBI nicojica

2021年度のAIRプログラムまとめ
プロフィール及びリサーチ記録



OPEN CALL

Sapporo Tenjinyama Art Studio

国際公募 AIR プログラム
(オンライン・レジデンシー)

50の質問 50 QUESTIONS

ジョシュア・ソファー / Sofaer, Joshua / UK

50 QUESTIONS
JOSHUA SOFAER

50の質問
ジョシュア・ソファー



- ◇プロジェクト協力 (敬称略): 廣野 聡美、菱野 史彦、河崎 ゆかり、北住 由紀、中島 崇、水戸 麻記子、八坂 千景
- ◇通訳・翻訳: 五十嵐千夏・関根ちあみ (さっぽろ天神山アートスタジオ)
- ◇プロジェクト伴走者: 遠藤 水城 (キュレーター)
- ◇プログラム期間: 2021年8月31日(火) - 10月29日(金): 60日間
- ◇成果報告展覧会会期と会場: 2022年2月3日(木) - 3月13日(日)、展示スペース



50の質問 50 QUESTIONS について 遠藤 水城(キュレーター)

ジョシュア・ソファーは、これまで観客を巻き込んだ参加型のアート作品を多数発表し、注目を集めてきました。彼の作品の多くは、参加者に驚きや喜びを与え、同時に参加者が単なる作品の一部になるのではなく、独自性や創造性を発揮し、一人の人間として作品の主人公になるような特徴もっています。アーティストという特権に疑義を投げかけ、多様である人間をそのまま肯定すること。今回、さっぽろ天神山アートスタジオで新作として発表された「50 Questions」もそういった作品群に連なるものと言えるでしょう。

参加者たちはみな札幌オリンピック開催年である1972年に生を享け、2022年に50歳を迎えた方です（実はジョシュア・ソファー自身はその年の生まれです）。彼らが時間制限のある中で50の質問に次々と答えていきます。質問は些細なものから、思わず考え込んでしまうものまで様々です。実際の回答はもちろんですが、質問に対する反応や表情までが映像に定着しています。その微妙な肌理や雰囲気が、この作品を極めて豊かなものにしていきます。この豊かさは、強い言葉やわかりやすい情報が価値を持ち、行動を制約し、分断を招いてしまう現代において、鋭いアンチテーゼを示していると言えないでしょうか。50の機械的な質問によって、カメラアイによって、上映によって、逆説的に肯定されているのは、人間がもつ複雑さと多様性そのものなのです。



2021年度のAIRプログラムまとめ
動画及びプロフィールほか





theatre on a cart/カートに乗った演劇

チャ・グエン / Nguyen, Tra / ベトナム、USA

- ◇コラボレーター（敬称略）：伊藤 チュウ、川島 朗、長谷川 真理
- ◇コーディネーター/通訳：松田 朕佳（アーティスト）
- ◇プロジェクト伴走者：ミンヒョン・カン（キュレーター、Barimディレクター）
- ◇プログラム期間：2021年8月31日（火）- 10月29日（金）：60日間
- ◇成果報告展覧会会期と会場：2021年11月23日（祝・火）- 12月5日（日）展示スペース

2021年度のAIRプログラムまとめ
動画及びプロフィールほか





凧が空におよぐとしたら、演劇はカートに乗って移動する

「空をおよぐ / Swimming in AIR」プログラムによせて ミンヒョン・カン (キュレーター)

現代美術におけるパフォーマンスは、ギャラリーや美術館などのブラックボックスシアターとは異なる空間を前提に実施していることが多く、劇場はプロセニウムステージ（演技空間）を持つ建物を前提としています。チャさんのプロジェクトでは、劇場は空間ではなく、演劇的な要素からなる概念であるとしています。そのため、俳優、脚本、演出、手法のすべてが非演劇的なものに変換されていきます。

このプロジェクトにおける演劇は、「カートに乗せて」届けられると比喻されていますが、チャが使っているカートとは、演劇的要素の粒子を入れた容器のことで、小さなブラックボックスの演劇のように、物がパッケージ化され、箱詰めされて、あなたのいる場所に届けられます。このさっぽろ天神山アートスタジオでの展示会は、チャから送られてきたカートだと思えますが、チャが送ったさまざまな宝物やプレゼントを見ることができると同時に、これからさきのどこか将来に彼女やどこか他の場所に戻るようなものを、観客が展示会においていくこともできるのです。

演劇（劇場）が国境規制で立ち往生しているという話をしていたら、さっぽろ天神山アートスタジオのディレクター小田井真美さんが、「凧は空中を泳ぐことができている」と、見事に凧の話をもとめてくれました（空気/airとしても、アーティスト・イン・レジデンス/AIRとしても）。凧がおよぐとするならば、演劇（劇場）はカートに乗っているということです。カートは車輪の上にあります、この車輪は地球の上にはありません。インターネットや郵便で何かを送るように、演劇はあなたのところにやってきます。このカートの前輪は札幌に向かっていて、後輪は元の場所に戻るために転がる準備をしています。札幌の親切的な観客のみなさんが、カートに乗った劇場を受け止めてくださり、できればカートをいっぱいにしてくれることを願っています。

コーディネーター / 通訳：松田 朕佳（アーティスト）

プロジェクト伴走者：ミンヒョン・カン（キュレーター、Barimディレクター）



交換AIRプログラム

共同プロジェクトタイトル：Terra cotta Embassy

Jatiwangi Art Factory(JAf)が2022年に開催されるdocumenta15の企画グループの一員となったことから、AIRを国際ネットワークのプラットフォームとして再構築することを目的に、JAfの国際ネットワークを形作っていた海外のAIRと、新たに共同プロジェクトを行うことを決めた。ゴールは、JAfの活動拠点であるジャティワンギにそれぞれのパートナーが「大使館」を建設するという夢のようなプロジェクト。さっぽろ天神山アートスタジオもこの共同プロジェクトのひとつとして始動することになった。北海道の近代化を象徴する「レンガ」とその産業、「レンガ」建築がもたらすイメージなどのリサーチから、ジャティワンギに建設する大使館のイメージを提案した。同時に、JAfのアリー・シャリフディンは、ジャティワンギからレンガの流通を辿り、港町のシルボンでリサーチを実施。最終的に食による文化交流をプロジェクト化しイベントと展示をインドネシア現地で複数回行った。



◇協力（北海道）：昭和窯業株式会社、江別市セラミックアートセンター、ワルンジャワ

◇プログラム期間：2021年10月1日 - 11月30日

◇成果報告トーク（記録撮影作成・公開）

プロフィール及び
Terra cotta Embassyについて





共同プロジェクトタイトル：

アイヌ文化における入墨を現代の若い世代がどのようにとらえているか（インタビュー）

台湾原住民のひとつの部族である「タルコ」アーティスト、ホウウェン・トントンと、Dawan Artists Villageディレクターのスールン・ウーの共同研究として開始した。ウボボイでスタッフとして勤務するアイヌの若い世代4名に、北海道を拠点に活動するマユンキキがインタビューを行い、台湾の2人とそのインタビューを共有する形で実施した。



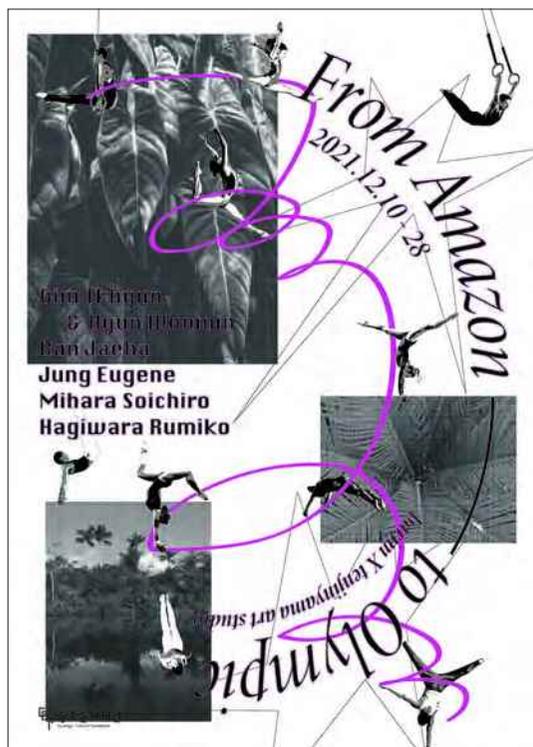
- ◇インタビュー / リサーチ協力：マユンキキ
- ◇インタビュー（敬称略）：川上さやか、上河彩、山丸賢雄、山田美郷
- ◇協力：ウボボイ / 民族共生象徴空間
- ◇リサーチ協力・通訳・翻訳：石村 明子
- ◇プログラム期間：2021年12月10日～2022年2月5日
- ◇成果報告トーク（記録撮影作成・公開）

プログラム概要ページ



アートスペース Barim（韓国、光州）とさっぽろ天神山アートスタジオ
2019-2021 交換AIRプログラム成果報告展覧会

From Amazon to Olympic / アマゾンからオリンピックまで



プログラム概要

韓国光州市を拠点とするアートスペース Barimとさっぽろ天神山アートスタジオは、2019年度から交換AIRプログラムをスタートさせた。3年目の2021年度に共同で展覧会を企画した。お互いが直接会って、展覧会を構築する計画だったが韓国のアーティストが日本に入国できなかった。そこで、同じ時期にBarimと天神山アートスタジオで、同じアーティストがそれぞれ作品を展示する、2つの会場でひとつの展覧会を構成しているが、この2会場に実際に来場できる人はいないという現実世界を映すやり方で実現した。
ポスターイメージデザイン：ジェハ・パン、支援：光州文化財団（韓国）、文化庁（日本）

開催情報（Barim）

일정：2021.12.10 - 12.28

場所：바림 (광주광역시) & 텐진야마 아트 스튜디오 (삿포로시)

時間：14:00 - 19:00

休観：월요일

開催情報（さっぽろ天神山アートスタジオ）

日程：2021年12月10日ー12月28日

場所：さっぽろ天神山アートスタジオ（札幌市）、Barim（光州市）

時間：10:00 - 20:00

休館日：月曜日

参加アーティスト

ジェハ・パン、ユジン・ジョン、イクヒョン・キム（キム・イクヒョンと玄宇民）、三原聡一郎、萩原留美子

From Amazon to Olympic

「From Amazon to Olympic」は札幌市のさっぽろ天神山アートスタジオ、韓国光州市のBarimが共同企画した展示で、12月10日から28日まで2つの場所で同時に開催されます。参加アーティストは、相互に関連をしているものの異なる作品をさっぽろ天神山アートスタジオとBarimそれぞれに展示します。だけど、同じアーティストによる2つの展示を同時に観覧することができる人はいないという状況を意識しています。

世の中は止まるのに、世界最大のショッピングモールのアマゾンにより激しく動きます。アマゾンのロゴを眺めると、AとZの間に矢印がおかれています。それは、AからZまですべてを売るという意味であり、アマゾン川に対する西洋のイメージ、つまりロゴに巨大さとエキゾチックな感じを込めようとしたそうです。

日韓関係の悪化、パンデミック、そして日本政府の入国制限により国境が封鎖された状況でも2020東京オリンピックは2021年に開かれました。オリンピックという世界の平和と協調という理想を売るショッピングモールは、アマゾンショッピングモールと同様に休むことはありませんでした。米国の大統領バイデンは北京オリンピックを外交的な理由でボイコットするかもしれないと言いました。このことから、オリンピックは文化とスポーツで国際交流するという以上の意味を持っているのが明らかでしょう。

アジアから見ると、未知の、そして一番遠い世界であり地球の最後の希望と言われるアマゾン川に対するイメージから、オリンピックという「国際交流」イベントのイメージまで、その上、純粹で睦まじく感じられる「国際」と「交流」という言葉そのものを問う今回の展示は、Barimとさっぽろ天神山アートスタジオの交換アーティスト・イン・レジデンスプログラム「White Letters」の活動成果発表(2021.03)につながる展示です。

参加アーティストは、旅たつことのできなかった前回の「White Letters」という札幌への旅程にオンラインで参加したジェハ・バン、ユジン・ジョン、今回新たに参加するはずだったイクヒョン・キム(イクヒョン・キムと玄宇民)、日本からは三原聡一郎とオランダ在住の萩原留美子。札幌と光州の2つの展示では、5名/組のアーティストが異なる作品を展示し、二人のキュレーター、ミンヒョン・カンと小田井真美がテキストを添えます。

もし、ひとつの展示しかみられない、2つの場所で開催されている展示の両方を見ることができなくても、パンデミックの中わたしたちがずっとそうしてきたように、その向こうに見ることのできない展示風景を想像することができる、2つの展示、離れた世界をなんとかつなげるポイントがきっとあるはずです。(展覧会ハンドアウトより)

展覧会概要及び参加アーティスト
プロフィール&作品テキスト





게임하기:
비영리단체에서
게임용 진행
소프트웨어
보여주고
게임 중
게임용
게임용
게임용



AIR in Hokkaido

札幌の制作現場とアーティストの北海道内滞在制作の現場



プログラム概要

「Art & Breakfast with 天神山」

札幌にはさっぽろ天神山アートスタジオ以外にどんな創造的活動拠点（スタジオコンプレックス、アーティスト・イン・レジデンス、制作スタジオなど）、また創造的活動をサポートする拠点があるのでしょうか。2014年以来「天神山文化祭」を毎年共同主催してきたご近所のみなさんにサポートいただきながら、さっぽろ天神山アートスタジオが札幌市内の創造的活動を行う拠点や人をオンラインで招いて、Art & Breakfast Dayを開催しました。

開催日時：2021年12月12日（日）11:00-13:00

内容：オンライン配信とオフラインの集い

オフライン会場

- 1) さっぽろ天神山アートスタジオ 1階 共有スペース
- 2) Guesthouse OYADO SAPPORO カフェ（南平岸）

プレゼンター：紹介する拠点・個人の制作スタジオ・活動（順不同）

Never mind the books、平尾拓也（ダンサー）、naebono art studio、npo S-AIR、SCARTSテクニカルサポートチーム、CoSTEP（北海道大学 高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター）、SIAF部 & SIAFラボ、O地点、Think School編集部

記録動画及びレポート



「北海道地域のAIRネットワーク構築のためのミーティング 「アーティストの滞在制作の現場 AIR in Hokkaido）」

1) 北海道AIRミーティング

パンデミックの発生で、それまで国内外から多くのアーティストが集っていたさっぽろ天神山アートスタジオで働く私たちはアーティストが来れない！と心底動揺しました。パンデミックの一月前には、国内AIR運営者のミーティングを開催しAIRの将来の可能性、発展を確信したばかりだったからです。人の移動を促進するしくみはなんだか悪者にもなったような気さえしました。そんな中、北海道内の3箇所から「アーティスト・イン・レジデンス」を始めます、始めたいという連絡が来ました。そのニュースが既存のAIR拠点に別の視点を与え、今の状況にあった新しいAIRのあり方を組み立て直すエネルギーになったのです。この状況でもアーティストを迎えたい、支援したいという強いモチベーション、または拠点地域への危機感の緩和の突破口にしたいという。これら複数の新拠点の出現、マイペースで運営している道内の他の拠点や活動等と、事情や状況を共有しやすい北海道地域に限定して情報交換の場をつくり、道内ネットワークを構築するとともに、ミーティングの記録を公開することで国内（または海外の）ほかの地域でのAIRに役に立つリソースになるのではないだろうかと考えました。複数回のミーティングを計画しましたが、リサーチの上、ミーティング参加の声

かけをした道内拠点は20箇所以上となり、さらにまん延防止の実施など道内での移動も難しくなったため、拠点への訪問を断念しオンラインのみで計画を実行しました。

北海道内でアーティストの滞在型制作を支える現場をオンラインリサーチ。個別に連絡をとったところ、ほかの運営団体とのつながりがなかったことがわかったことから、多くの団体が参加するミーティングを1回開催しました。その中で、お互いの存在を知ることと、広くアーティストに向けて北海道でのAIRの営みを紹介する資料作成しました。

オンライン・ミーティング開催日時：2022年2月25日（金）
19:30-21:30

参加者・団体：旭川準備室AIR（旭川市）、藤木正則（個人、旭川市）、Art Labo北舟/NorthernArk（豊頃町）、清水沢プロジェクト（夕張市）、みる・とーぶ（岩見沢市）、当別アーティスト・イン・レジデンス（当別町）、とものいえ（江別市）、ヒミツキチこひつじ（斜里町）、muroran art project（室蘭市）、おとどけアート実行委員会（アーティスト・イン・スクール）、さっぽろ天神山アートスタジオ/アートとリサーチセンター

2) 紹介資料作成プロジェクト

・動画資料作成協力団体

旭川準備室AIR（旭川市）、清水沢プロジェクト（夕張市）、みる・とーぶ（岩見沢市）、当別アーティスト・イン・レジデンス（当別町）、ヒミツキチこひつじ（斜里町）、おとどけアート実行委員会（アーティスト・イン・スクール）

・既存資料提供団体

Art Labo北舟/NorthernArk（豊頃町）、とものいえ（江別市）

◇リサーチ対象団体（上記以外）

アートヴィレッジ恩根内（美深町）、しべつアーティスト・イン・レジデンス（士別市）、アーティストインレジデンスあさひかわ（旭川市）、極寒芸術祭（弟子屈町）、ツルイの小屋（鶴居村）、とかちアーティスト・イン・レジデンス（帯広市）、白老町のアートプロジェクト3事業（白老町）、muroran art project、ほか個人のアトリエ

支援：文化庁

主催：さっぽろ天神山アートスタジオ、一般社団法人AISブランニング

プロジェクト概要



子どもワークショッププログラム 「千鳥石火山灰ガラスクラブ」

◇アーティスト：深澤 孝史

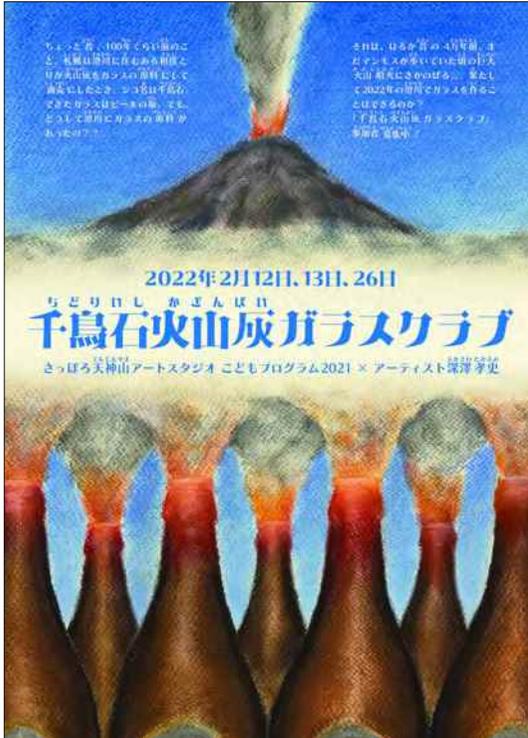
◇講師：伴野 卓磨（道新りんごステーション）、上杉 高雅（Studio II GLASS Factory）

◇作業サポート：上ノ 大作

◇ポスター制作とデザイン、コーディネーター：小林 大賀

◇ワークショップ 日時と会場：2022年2月12日（土）/ 紅桜公園・13日（日）・26日（土）/ 天神山アートスタジオ、いずれも13:00 -16:00

◇成果展覧会日程：2022年3月20日ー4月10日 / 展示スペース



2021年度は参加アーティストに深澤孝史さんを迎え、澄川地区の火山灰を熱してガラスを生成するワークショップを開催しました。



千鳥石とは、明治期の札幌で人気を博した草相撲の力士の四股名。天神山が隣接する澄川に住み、この土地の火山灰をビール瓶の原料として商売を繁盛させました。深澤さんが感染拡大による活動自粛期間中に石碑巡りをしていた時、天神山アートスタジオから徒歩一分の相馬神社境内に立つ「千鳥石の碑」を見つけたことが、後のこの企画のアイデアへと発展しました。



2月12日 ワークショップ1日目「レクチャーと火山灰採取@紅櫻公園」

レクチャー前半は古生物学・地質学博士の伴野卓磨さんが4万年前の支笏火山の噴火や札幌のピール史を軸に、この企画の背景となった歴史を解説。火山噴火の発泡現象を再現する「メントスとコーラ」の実験も行いました。後半はガラス作家の上杉高雅さんからガラスの造形の特徴を教えてもらい、ガラスで作りたいものを各々描いてもらいました。レクチャーの後、公園内の火山灰地層が露出している崖を登り、ガラス生成の原料として火山灰を採取しました。



2月13日 ワークショップ2日目「窯づくり」

火山灰を溶解させてガラスを作る窯づくりを行いました。伴野さん上杉さんに加え、陶芸家の上ノ大作さんがサポートしてくれました。窯はレンガをガラスウールで覆い、炭で火をおこしますが、ガラスの溶解には1000度を超える温度が必要です。ましてや北海道の2月の外気の中でのワークショップ。どんな構造にすればそこまで温度を高められるか、未知の挑戦にスペシャリストが意見を重ねていました。子どもたちにSK-38という特殊な耐火レンガを積んでもらい、目地は「童仙房」という粘土で埋めていきます。少しの隙間も熱のロスにつながるため、真剣な作業。最後に煙突をつけて、窯が完成しました。



2月26日 ワークショップ3日目「窯焚き」

1000度を超えるためには前日から火入れが必要と判断し、前日から泊り込み作業に。「窯を作ったら火を入れる前に一度お参りするもんだよ」と上杉さん。この日も助っ人に来てくれた上ノさんと相馬神社に願掛けするところから始まりました。

当日の朝、燃焼を促進させるブロワー（送風機）を設置し、窯に空気を強制的に送り込みます。なんと自分でフィゴを作ってきた子もいます。窯が温まったところで、上杉さんからガラス原料の配合についてのレクチャーがありました。採取した火山灰はふるいにかけて粉状にし、融点を下げるために2~4割のソーダ灰を混ぜて原料とします。

ワークショップの2日目に窯の後ろに風除けのために掘っていたカマクラ。窯から延びた煙突がカマクラの頂上に突き抜けていて、煙がもうもうと立ち上がる仕組みから、「支笏火山カマクラ」と命名されました。

15時ころには窯の温度が900度を超え、ワークショップ終了の16時、まだドロドロに溶けてはいませんが、ガラス質のものが少し採れました。その後も残った参加者と火を焚き続け、18時に取り出した原料は完全に溶けていました。26時間、炭30kgを燃やしてガラス片を取り出すことができました。

果たしてこの窯で火山灰をガラスにできるのか、チャレンジングな試みだったと思います。深澤さんはもちろんのこと、上杉さん、上ノさんら窯スペシャリストが「子どもたちには良い体験にしてあげたいね」と意気込んでくれ、ガラス化を成功することができました。



3月 「成果展示」

ワークショップに使用した材料や、記録写真と映像、生成されたガラス片、アーティストが制作した模型、石碑、書き下ろしエッセイを合わせて、ガラスクラブの成果展を開催しました。



まふゆのそとで ガラスをつくるなんて おとだってはじめて
あといちにち 「たきび」をつづけていたら キラキラガラスも
できていたとおもったよ。

これがなつだったら あとなんじかんかで まるいガラスに
なっていたかもしれないとおもったよ。
なっていたっておもったよ。

べんりなどうぐやきかえをつかえば もっとみじかいじかんで
とろとろなガラスになっていたかもしれないな。
べんりなだけじゃ こんなすてきなじっけんには ならないけど。

だけど このガラス かざんばいからうまれた これはきっと
もうおなじものをつくれないかもしれないぐらい
みんなのつくった はじめてのガラス はじまりのガラス

ときがきたら またあおう

上杉 高雅 (Studio II GLASS Factory)

「千鳥石火山灰ガラスクラブ」に関するリンク



さっぽろ天神山アートスタジオ 2021年度 事業・活動記録集
Sapporo Tenjinyama Art Studio Annual Report 2021.04-2022.03

2023年3月 発行

撮影：小牧寿里、さっぽろ天神山アートスタジオ スタッフ

データ資料作成：深澤 優子（滞在者・イベント）

概要執筆・編集：小田井 真美

協力：都築ひろみ（校正）

デザイン：真砂 雅喜

発行：札幌市

2021年度AIR事業の一部は、文化庁令和3年度アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流事業、文化庁令和3年度戦略的芸術文化創造推進事業により実現しました。

スタッフ：

- 管理運営マネジメント/統括：漆 崇博（一般社団法人AISプランニング）
- 管理運営：小林 亮太郎（一般社団法人AISプランニング）、伊藤 好美、深澤 優子
- コーディネーター：小林 大賀、小林 亮太郎、松田 朕佳、さっぽろ天神山アートスタジオ スタッフ
- コレスポデンス：関根 ちあみ、五十嵐 千夏
- ドキュメント：五十嵐 千夏、小林 大賀、小牧 寿里
- AIRディレクター/事業設計・企画：小田井 真美

さっぽろ天神山アートスタジオ

〒062-0932 札幌市豊平区平岸2条17丁目1番80号（天神山緑地内）

TEL 011-820-2140

info@tenjinyamastudio.jp

tenjinyamastudio.jp



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan



謝辞（プログラム別、順不同、敬称略）

メイ・イン（ヘーゼル）・ウォン、荒木 悠、青木 尚哉、永岡 大輔、張 小船、山田 百次、曾我 英子、升谷 絵里香、是恒 さくら、泉 陽二、稲村 行真（以上、アーティストとコロナ期間寄稿）

廣野 聡美、菱野 史彦、河崎 ゆかり、北住 由紀、中島 崇、水戸 麻記子、八坂 千景、遠藤 水城、宮路 雅行、宇流 奈未、来島 路子、Naoko Sugiyama、Hamao、有馬 真作、川島 泰史（以上、ジョシュア・ソフアー）

伊藤 チュウ、川島 朗、長谷川 真理、松田 朕佳、ミンヒョン・カン（以上、チャ・グエン）

磯崎 道佳、佐藤 真奈美（清水沢オープンゲート）、室蘭市民俗資料館/とんてん館、そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター（以上、井上修志）

大下 智一（北海道立近代美術館）、小樽市蔵号博物館、牡警町郷土史料館・横綱北の湖記念館、小牧 寿里、川上 大雅（salon cojica, KINBI nicojica）、吾郷 亜紀、ie、Oven Univers（以上、大崎土夢）

井上 修志、寺世 風雅、昭和窯業株式会社、江別市セラミックアートセンター、ワルンジャワ（以上、アリー・シャリフディン）

マユンキキ、川上 さやか、上河 彩、山丸 賢雄、山田 美郷、野本 正博、谷地田 美緒（ウボボイ/民族共生象徴空間）、石村 明子（以上、トントン・ホウウェンとスールン・ウー）

加藤 ジュン/Aterier Django、宮路 雅行（以上、From Amazon to Olympic）

深澤 孝史、伴野 拓磨、上杉 高雅、上ノ大作、紅櫻公園（以上、千鳥石ガラスクラブ）

四方 幸子、穂積 利明、水上 秀一、桂造園（二風谷町）、北海道猟友会/白老、中村 諭、**RESULT**

過去と2021年度に天神山アートスタジオに滞在したアーティスト、プログラムにご参加・来館くださったみなさま、いつも励ましてくださる近隣の方々、日本国内・北海道内のAIR運営者のみなさん







**SAPP
RO**

01-D05-22-1932
R4-1-129

tenjinyamastudio.jp